

八重山の蝶感想記

八 木 弘

I はじめに

1980年4月28日から5月5日まで初めて八重山諸島を訪ねて八重山の蝶との出会いに限りない喜びを感じず日々を送り、機会あれば季節を変えもう一度訪ねてみたいものだと思っていた。その機会を得て、1982年7月30日より8月8日までの予定で蝶友の、佐々木氏夫妻、入江氏と共に真夏の八重山へ大阪空港より7月30日、9:25発ANA 101F便で採集の旅へ!!

II. 旅 程

7月30日	大阪	ANA 11:30着 101F	沖縄	SWAL 13:55着 611F	石垣	SWAL 16:30着 109F	与那国	
		9:25発	12:55発	15:50発			2泊	
7月1日	与那国	SWAL 17:20着 710F	石垣空港	石垣港	石垣港		1泊	
		16:45発						
7月2日	石垣港	高速艇	9:45	西表島			大 富	3泊
7月5日	西表島	ウォータージット		石垣港			川 平	3泊
7月8日	石垣空港	SWAL 14:40 642F	沖縄	ANA 17:55 106F	大阪			
		16:00						

上記の旅程表の如く今回は与那国島まで足を伸べてみたいものと計画しましたが、台風通過後の強風のため、石垣発15:50与那国行きSWAL 709F便欠航のアクシデントに見舞われ与那国行きを断念せざるを得ず、不本意な結果となり予定を変更する。

石垣→西表→石垣→竹富→石垣の採集行となりました。今回の採集日程、採集地、採集記録等の詳細については重複するのをさけて同行の佐々木氏に一括報告して戴き、感想の一端のみを記します。

III 真夏の八重山

八重山の夏場は蝶が豊富であろうと漠然と思い込んでいた私は、極端に少ない蝶相にただ愕然とするのみ我身の不勉強がくやまれる。毎年このような状態なのであるのか。今年は特別なのか。それとも台風通過後の故なのであるのか知るよしもないが、いずれにしても夏場の八重山は蝶採集の好期ではないようだ。

この様に総体的に少ないなかで、1980年4月下旬か

ら5月上旬にかけての採集行では局部的発生であろうと思っていたメスアカムラサキが分布も広く個体数も意外と多い。前回は採集の時期が少し早かったのであろう。尚、意外に思えたのは当然各地で見られるはずの蝶が局部的な発生になっていた事である。

1980年4月下旬から5月上旬の採集時には各地で見られたリュウキュウアサギマダラや、無数に乱舞していたスジグロカバマダラ等の普通種が、川平地区では多数発生しているのに他地区ではまれにしか見かけられない。また、シロオビアゲハは石垣島、西表島では全然見かけられないのに竹富島では多数発生し、ハイビスカスの花に群れていた。

これらの現象は5月上旬頃に各地で同時発生を見てもその後、化性を重ねる内に各々の棲息地の地形環境の僅かな差異によって幼虫の発育に遅延を生じ、発生の時期にばらつきが出来るのであろう。

もしそうだとすればそのことが全島的な端境期をなくし蝶屋に幸いし季節を通じ何時でもどこかで僅かでも採集出来る事になる。但し例外もある。分布も広く個体数の多い、イシガケチョウは完全な端境期らしく全然見かけられない。干立で古ぼけた1exを採集したのみである。

岩村氏の採集記録では8月中旬には各地でイシガケチョウを採集した事が記されていることから8月中旬以降では各地でその姿が見られるのであろう!!

IV 於茂登岳に失望

好採集地とされる於茂登岳には大いなる期待をかけていた。ルリウラナミシジミ、コウトウシロシタセリなど多数採集出来る事と夢みていた。その期待は見事打ち破られる結果となる。

同行の入江氏(1981年11月)の石垣島晩秋の採集記播磨蝶友会誌 ひろおび No.6 P.24の一節を借りれば於茂登岳中腹名蔵湾の見渡せる三叉路まで来た頃より風強く、ツベニチョウ、カラスアゲハ、クロアゲハ等大型の蝶が飛ぶと言うより風に流れ次々と横切っていく。

名蔵湾の方へと下る道筋。貝殻色をあたり一面に振りまく、ルリウラナミシジミ、テリトリーを守るため追尾を繰り返し又元の場所へ戻る、コウトウシロシタ

セセリ、交尾したまま飛翔する、メスアカムラサキ、ネットを振るのも嫌になる程の、スジクロカバマダラ等々……1982年8月7日名蔵湾が見渡せる上文の三叉路より、ルリウラナシジミ、コウトウシロシタセセリなどの採集を期待し同行の入江氏と共に嵩田植物園に至る同じ道筋を約2.5キロ約1時間をかけての採集行で採集出来たのは、タイワンキチョウ 2 exs、ジャコウアゲハ 1 ex の三頭のみ。他に蝶影も見ず、入江氏の一文がまったく嘘の様だ。暑さひとしお身にしむ。嵩田植物園で喰放題400円のワインで渴をいやす。

注 於茂登で全然見かけられなかった、ルリウラナシジミが川平では多数発生していた。

コウトウシロシタセセリは、西表島カンピラーで発生していた。

V 失敗記 ハマヤマトシジミを見逃す

不勉強のため何時も失敗を重ねている。今回の採集行では、ハマヤマトシジミを見逃す失敗を繰り返す。

今回ハマヤマトシジミの採集も目標の一つであった。

7月31日、川平で、シルビアシジミを採集し、ハマヤマトシジミを採集したものと思ひ込む。

8月6日、竹富島を訪ねた際、ハマヤマトシジミを発見しながらすでに、川平で10数頭採集しているとの安心感で分布の確証のためにと2頭採集し深追いせず見逃してしまう。

帰省後蝶友H氏から、川平で採集したものは総てシルビアシジミである事を指摘される。蝶友に進呈してもと残しておいた数頭を慌てて調べ竹富島採集の2頭のみがハマヤマトである事が判明、2頭だけでもハマヤマトであった事がせめてもの慰めではあるが、それと知っておれば、かなり採集出来たものをとくやまれる。

シルビアシジミの八重山産は本土産に比べ一廻り小さく、ハマヤマトと大きさ色合も類似し採集中の識別は容易ではない。それにしてもうかつな話である。

VI 好採集地紹介

1980年5月上旬、1982年8月上旬の二度の調査では不十分で真相など知る由もなく好採集地の多い八重山で好採集地として紹介するなど無謀の誹をうけるとは思いますが何かの参考になればと思い二度の体験と知見の範囲内に於て自分なりに好採集地とおぼしき所を石垣島、西表島、各々一つを選びあえて紹介してみます。

1. 石垣島 川平

石垣島随一の景勝地川平は石垣港からバス川平西回り一周線で40分、川平湾に臨んで真白な砂浜が開け、エメラルドグリーンの海には小島が散在している。まるで絵に描いた様な美しさである。

夏場には本土より押しよせるヤング連で民宿はふくれあがっている。

この景勝地川平はまた蝶の好採集地でもある。部落を中心に周囲2.5キロ程の小範囲に多数の棲息を見る事が出来る。海岸沿いに帯状に残る原生林の道筋の花には多種の蝶が吸蜜に集まる。

特に川平の魅力は、ベニモンアゲハ、ナミエシロチョウ、アオタテハモドキ、ルリウラナシジミ等が多産し、石垣島では珍しい、カワカミシロチョウも採集出来る。1973年以降八重山で採集され始めたといわれる、クロボシセセリも多産する事などである。

今回の採集行で小生の採集した40種中30種はこの川平で採集出来た。

川平採集30種の種名は、佐々木氏発表の採集記録を参照下さい。

2. 石垣島川平棲息確認蝶

1974年8月12日 採集 岩村氏

1980年5月上旬 採集 佐々木氏 八木

1981年11月上旬 採集 入江氏

1982年7月下旬～8月上旬採集佐々木 入江 八木

上記播磨蝶友会員3氏の協力のもと四度の川平採集行の結果、棲息の確認された蝶について報告します。

セセリチョウ科 10種

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 オキナワビロウドセセリ | 2 ユウレイセセリ |
| 3 オオシロモンセセリ | 4 チャバネセセリ |
| 5 タイワンアオバセセリ | 6 ヒメイチモンジセセリ |
| 7 トガリチャバネセセリ | 8 クロセセリ |
| 9 ネットタイアカセセリ | 10 クロボシセセリ |

アゲハチョウ科 6種

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 ベニモンアゲハ | 2 ジャコウアゲハ |
| 3 シロオビアゲハ | 4 クロアゲハ |
| 5 カラスアゲハ | 6 アオスジアゲハ |

シロチョウ科 9種

- | | |
|-------------|------------|
| 1 キチョウ | 2 タイワンキチョウ |
| 3 モンシロチョウ | 4 モンキチョウ |
| 5 ツマベニチョウ | 6 ナミエシロチョウ |
| 7 カワカミシロチョウ | 8 ウスキシロチョウ |
| 9 ウラナミシロチョウ | |

- マダラチョウ科 4種**
1 カバマダラ 2 スジグロカバマダラ
3 リュウキュウアサギマダラ 4 オオゴマダラ

- シジミチョウ科 9種**
1 ルリウラナミシジミ 2 オジロシジミ
3 アマミウラナミシジミ 4 ヤマトシジミ
5 タイワンクロボシシジミ 6 ヒメウラナミシジミ
7 ヤクシマルリシジミ 8 シルビアシジミ
9 ウラナミシジミ

- タテハチョウ科 11種**
1 ヤエヤマイチモンジ 2 ルリタテハ
3 ツマグロヒョウモン 4 ヒメアカタテハ
5 リュウキュウミスジ 6 アオタテハモドキ
7 タテハモドキ 8 アカタテハ
9 リュキュウムラサキ 10 イシガケチョウ
11 メスアカムラサキ

以上49種
ジャノメチョウ科は皆無となっている。ジャノメチョウ科は西表島と比し局部的で個体数も少ない様に思う。それにしても川平で皆無とは考えられない。調査不十分の故と思う。
上記は部落を中心に海岸より平地部を主とした調査に終り部落南側の山地部の調査も含め綿密に調査すれば少なくとも55～56程度の棲息が確認されるであろう。

2. 西表島 豊原地区

豊原は西表島西端の部落で1980年頃までは部落から西に通ずる道路もなく、西表島を訪ねる人々も大原港から白浜間の定期バスを利用し西端の豊原地区に足を踏み込む事も少なかった様で、蝶相についても未調査地区であろう。

現在は大原港から道路も整備され豊原部落から西方へ数キロは車を走らせる事も出来る。

4～5年前までは西表島にはレンタカーもなかったが、現在は大原港にレンタカーもあり、豊原地区の採集も容易となったので西表島を訪れる愛蝶家にお勧めしたい地区である。

大原港から西へ2キロ、このあたりから豊原で右手は山がせまり左手は道路にそって広々と畑地が続き畑地の向側には原生林が残り、畑地の周辺は、カバマダラ、メスアカムラサキ、タテハモドキ、クロセセリ、ウスイロコノマチョウ等が棲息し、原生林を抜ける道筋はオオシロモンセセリ、ベニモンアゲハ、カワカミシロチョウ、イシガケチョウ等種々の蝶が棲息し、500米程先の部落民家周辺は、ウスキシロチョウ、メスア

カムラサキが多産し、ウスイロコノマチョウなども見かけられる。

今回は道路が整備されていたので初めて部落西方へと車を走らせてみる。5～6分走った所で左手に、なだらかな丘と小山の間が少し開け放牧場らしき草原の上空を埋める、オオゴマダラの大集団に出会う。

5～6頭ずつ列をなし各所で風に流れる如く、或は編隊をなし大空せましと群れ飛ぶ様は優雅を越え壮観と言うべきか。その数100をはるかに越えるであろう!!

川平ですでに10数頭採集していたのでこの壮観を乱すに忍びず、ネットを立てただ傍観するのみ。

佐々木、入江両氏は数頭ずつ採集した様である。誰れ言うことなくこの地をオオゴマダラの森と名付ける。

佐々木氏はこの地で、シロミスジを採集した。アオタテハモドキ、タテハモドキ等も見かけられ、種名さだかでないが、シジミ蝶が樹間でチラついている。

時間をかけて調査してみたい所であるが、当日はカンピラー滝を訪ねる予定のため早々と引きあげる。

豊原地区棲息確認蝶

1980年 4月下旬～5月上旬 採集 佐々木 八木

1982年 8月上旬 採集 佐々木 入江 八木

只二度の調査で豊原地区の蝶相の全ぼうなど知る由もないが、この地方が未調査地区と考えられますので佐々木、入江両氏の協力を得て現在確認された種名を報告致します。

- セセリチョウ科 7種**
1 タイワンアオバセセリ 2 クロセセリ
3 トガリチャバネセセリ 4 ユウレイセセリ
5 ヒメイチモンジセセリ 6 オオシロモンセセリ
7 ネットアイアカセセリ

- アゲハチョウ科 4種**
1 ベニモンアゲハ 2 ジャコウアゲハ
3 カラスアゲハ 4 クロアゲハ

- シロチョウ科 7種**
1 ウラナミシロチョウ 2 カワカミシロチョウ
3 ウスキシロチョウ 4 モンシロチョウ
5 タイワンキチョウ 6 ナミエシロチョウ
7 キチョウ

- マダラチョウ科 5種**
1 スジグロカバマダラ 2 カバマダラ
3 リュキュウアサギマダラ 4 アサギマダラ

5 オオゴマダラ

シジミチョウ科 6種

- | | |
|---------------|-----------|
| 1 ウラギンシジミ | 2 ヤマトシジミ |
| 3 ヒメウラナミシジミ | 4 オジロシジミ |
| 5 タイワンクロホシシジミ | 6 ウラナミシジミ |

タテハチョウ科 7種

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 メスアカムラサキ | 2 ツマグロヒョウモン |
| 3 リュウキュウミスジ | 4 タテハモドキ |
| 5 アオタテハモドキ | 6 シロミスジ |
| 7 イシガケチョウ | |

ジャノメチョウ科 3種

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 ヒメジャノメ | 2 ウスイロコノマチョウ |
| 3 マサキウラナミジャノメ | |
- 以上39種

上記の通りでありますに至って粗雑な調査の範囲であり綿密に調査すれば50種程度は棲息しているものと思う。

あとがき

期待していた夏場の蝶の意外に少ないのには驚きであった。八重山の蝶相は、春夏秋を通じての観察調査でなければ到底把握し得ない事を痛感させられる採集行であった。9月中旬～10月中旬にかけての最盛期にもう一度訪ねてみたいものである。

参考文献

- | | |
|------|---------------------|
| 岩村 巖 | 播磨蝶友会誌 ひろおび No 6 |
| | 八重山の蝶 P 1～P 14 |
| 佐々木薫 | 播磨蝶友会誌 ひろおび No 6 |
| | 八重山の蝶類採集記 P 15～P 23 |
| 入江照夫 | 播磨蝶友会誌 ひろおび No 6 |
| | 石垣島晩秋の採集記 P 24～P 25 |

HIROSHI YAGI 〒678 相生市

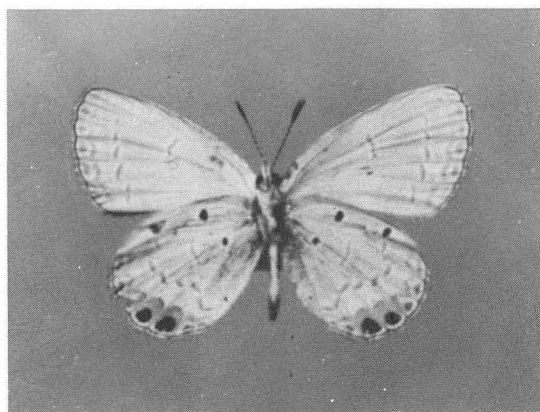
石垣島の

タイワンツバメシジミ

入江 照 夫

ひろおびNo 6の「石垣島晩秋の採集記」で、タイワンツバメシジミの採集記録を報告したが、データが不十分であったため、写真を添えここにあらためて報告しておきたい。

1981年11月7日、石垣島川平で採集した1頭のみの個体ではあるが、写真でも判別出来るように、後翅裏面の黒点も大きく鮮明にでている。



オオウラギンヒョウモン

1776卵を産卵

近 藤 伸 一

兵庫県養父郡関宮町東鉢伏にて1983年9月23日採集したオオウラギンヒョウモンの卵が、9月24日から11月9日にかけて、1776卵という多数を産卵した。成虫は、透明のプラスチックの容器の内側をネットでおおい、中にスミレと枯葉を入れて飼育した。エサにはカルピスをうすめて、一日1回与えた。10月末になると気温が低下して、日中以外は不活発となり、エサを与える時はあらかじめ電燈で温度を上昇させた。11月1日から11月9日の間に産卵した1721卵目から1776卵目までの56卵についての孵化の状況は、1984年1月8日では、3月20日で12を数え受精卵であることも確認出来た。

Shinichi Kondo

〒674 神戸市